

大石田まで延伸が実現 宮城・山形「絆」ツール・ド・347を開催

宮城・山形「絆」ツール・ド・347が、9月25日(日)に宮城県加美町～尾花沢市～大石田町間で行われ、約140人が参加しました。

ツール・ド・347とは、宮城県加美町、尾花沢市、大石田町の国道347号「絆」交流事業の1つで、同国道沿線を自転車で行き抜ける、緑豊かな自然を体感できるイベントです。

コースは3つ用意され、発着点はいずれも加美町の「やくらいウォーターパーク」です。ロングコース(120km)は鍋越峠を經由し、大石田町の「あつたまりランド深堀」で折り返すもので、ショートコース(47km)は鍋越峠を往復するものです。

また、身体障がい者向けのパラチャレンジの部(25km)も用意され、加美町漆沢の「いっぷく亭」で折り返します。「ファンライド」という、タイムや順位を競わない方式で開催し、各市町に設置されたエイドステーション(水分・食料補給処)では、それぞれの特産品や名物を堪能できます。

参加選手たちは、午前9時～正午ごろの間に大石田町に来町し、あつたまりランド深堀に設置されたエイドステーションで手打ちそばとだんごを食べ、大石田の味覚を楽しみました。



いざという時の備えに! 大小児童がマイ・タイムラインを作成

大石田小学校防災学習が、9月28日(水)に大小で行われ、4年生児童19人が参加しました。これは、同校が子どもたちの防災意識を高めるため、国土交通省新庄河川事務所大石田出張所(皆澤和哉所長)に協力を依頼し、今回初めて実施したものです。

マイ・タイムラインとは、住民一人ひとりのタイムラインであり、台風の接近などによって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、とりまとめるものです。時間的な制約が厳しい洪水発生時などに、行動のチェックリストとして、また避難判断のサポートツールとして活用されることで、「逃げ遅れゼロ」に向けた効果が期待されています。

この日は、国土交通省から提供いただいた小中学生向けマイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」を活用して行われ、グループごとに避難の際に持っていきべき物や自分がどこに避難するかなどを話し合っ

て整理し、マイ・タイムラインにまとめて発表しました。

防災学習に参加した平林琉星^{りゅうせい}さんは、「避難の時に持っていかないといけない物がすごく多くて驚きました。勉強になりました」と話していました。



実りの秋迎える 南小児童が稲刈り作業を体験

町内小学校の5年生児童が稲刈りを体験しました。各小学校では農作業の大変さや収穫の喜びを味わってもらおうと毎年春に田植え体験、秋に稲刈り体験を地域の方などにご協力いただき実施しています。

そのうち、南小では10月4日(火)に行われ、児童たちは、慣れない鎌を手に、黄金色に実った稲を丁寧に刈り取り、その後、稲架掛けを行いました。

参加した南小の伊藤怜さんは「自分たちで定植した稲の刈り取りをしました。農作業を通して、ふるさと感じることができて良かったです」と話していました。



結婚50周年おしどり夫婦を祝う 令和4年度金婚記念祝賀式典

金婚記念祝賀式典が、9月30日(金)に虹のプラザ「なないろホール」で行われ、昭和47年に結婚された26組のご夫婦の結婚50周年を祝いました。

式典では参加したご夫婦に町社会福祉協議会から記念品が贈呈されたほか、木村敏郎山形新聞尾花沢支社長から「おしどり金婚さん」顕彰レリーフが手渡されると、参加ご夫婦を代表して工藤敏昭さん・幸子さん(海谷)がお礼の言葉を述べました。参加したご夫婦は、共に過ごした半世紀を振り返りお互いをたたえあっていました。



やっしょーまかしょー! 北小児童が伝統の花笠踊りを学ぶ

大石田の伝統的な文化に触れてもらおうと、9月14日(水)に北小で、元祖花笠踊りの保存活動を行っている芳賀しげ子さん(岩ヶ袋)を招いた音楽学習が行われました。2年生の音楽教科書では、いろいろな国の踊りや音楽を楽しむ学習があり、郷土の音楽や踊りに親しんでもらい、感性を育むねらいがあります。

この日は、2年生児童12人に元祖花笠踊りの指導が行われました。

参加した青木暁^{あきの ずけ}ノ助さんは、「いつか家族に見せたいです」と話していました。



北村山森林組合が大石田保育園に 木製ベンチを寄贈

北村山森林組合(佐藤里美組合長)が、10月5日(水)に大石田保育園を訪れ、木製ベンチ1台を寄贈しました。これは、同組合が緑の募金を活用し、園児に木の優しさや温もりを知ってほしいという思いから実施したものです。

寄贈式に参加した佐藤朱依^{しゆい}さんと柴崎陽向^{ひなた}さんは、ベンチに座って「木で作られていて気持ちいいです」と話していました。